

令和5年度

事業所における自己評価結果（公表）

事業所名 カンガルー療育支援室セントラルステーション

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	5	1	活動スペースと休息スペースを分けて限られたスペースを最大限に使用している	・児童発達と放課後デイが重なる時間の使い方に課題が残る
	②	職員の配置数は適切である	1	5		・スタッフの休暇などで、必要要員を確保できない日がある ・児童指導員が1名のため、休暇時の対応や1名での負担が大きい
	③	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	3	3	玄関から療育室へ直進で入れるよう、スロープ台を2台使用する工夫をしている	・部屋の出入り口の扉が狭いため、バギーの出入りが大変（呼吸器など医療機器の損傷リスクあり） ・玄関から直進方向の扉には段差があり、バリアフリーになっていない災害時などの避難対応に注意が必要
	④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	5	1	・毎日の清掃と消毒を徹底している ・生活空間や活動エリア全体にフロアマットを敷き、心地よく安全に過ごせるようにしている	・集中して活動ができる環境整備が必要
業務改善	⑤	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	1	4		・PDCAサイクルを意識した業務改善はされていない ・今後、注力していく
	⑥	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	2	3		・保護者様からの評価を真摯に受け止め、スタッフ全員で共有し、業務改善に努めたい
	⑦	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	5	1		年度末に、ホームページにて公開している 継続
	⑧	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		5		コロナ渦等で開催できていないため、次年度は開催したい
	⑨	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	6			定期的に研修を行い、業務知識の向上に努めている 継続
適切な支援の提供	⑩	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	6			継続
	⑪	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している		5		標準化されたツールがない為、今後作成し活用していく
	⑫	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	6			継続
	⑬	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	6			・定期的に担当者会議を行い、支援内容を共有している 継続

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
	⑭	活動プログラムの立案をチームで行っている	4	1		児童指導員が中心になって立案していた
	⑮	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	6			継続
	⑯	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を 適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成 している	6			継続
	⑰	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、そ の日行われる支援の内容や役割分担について 確認している	6			朝礼時に、活動内容の確認は行っていたが、 役割分担については明確にされていないこと があった
	⑱	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、 その日行われた支援の振り返りを行い、気付い た点等を共有している	2	4		当日には振り返りはできていないが、翌朝の 朝礼で前日の利用者の様子を伝え共有する ようにしていた
	⑲	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、 支援の検証・改善につなげている	6		日々の支援等を、個別の支 援記録表に記録し支援の検 証・改善に努めている	継続
	⑳	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援 計画の見直しの必要性を判断している	6			半年ごと及び計画に変更が生じた時は 見直しを行っている 継続
関係機関や保護者との連携関係機関や保護者との連携	㉑	障害児相談支援事業所のサービス担当者会 議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい 者が参画している	6			継続
	㉒	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や 関係機関と連携した支援を行っている	5			継続
	㉓	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害 のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等 の関係機関と連携した支援を行っている	5			継続
	㉔	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害 のある子ども等を支援している場合) 子どもの 主治医や協力医療機関等と連絡体制を整え ている	5			継続
	㉕	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚 園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支 援内容等の情報共有と相互理解を図っている	5		同一法人内の保育園と の連携はできている	継続
	㉖	移行支援として、小学校や特別支援学校(小 学部)との間で、支援内容等の情報共有と相 互理解を図っている	5			支援校の見学を行っているが、今後も更に 情報共有に努めていく必要がある 継続
	㉗	他の児童発達支援センターや児童発達支援事 業所、発達障害者支援センター等の専門機関 と連携し、助言や研修を受けている	4	1		継続
	㉘	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、 障害のない子どもと活動する機会がある	5			継続
	㉙	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・ 子育て会議等へ積極的に参加している	2	3		管理者が定期的に自立支援協議会に参加している が、職員周知が不十分であったため今後しっかり周知 していく
	㉚	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、 子どもの発達の状況や課題について共通理解 を持っている	6		送迎時や連絡帳・LINEで 共有している	送迎時間内では共通理解に限界がある為、 もっと関わる機会が必要である 継続
	㉛	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護 者に対して家族支援プログラム(ペアレント・ト レーニング等)の支援を行っている	3	2		ペアレントトレーニングについての理解・研修等 を行い支援につなげていく

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
保護者への説明責任等	③②	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	5			継続
	③③	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	6			継続
	③④	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	5	1	送迎時に助言は実施している	個別支援計画書の見直し時に面談等で、助言を行っている
	③⑤	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	1	4		保護者会が開催できていないので、SNS等を利用して開催したい
	③⑥	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	6			継続
	③⑦	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	4	2		SNSを活用し情報発信を行っている 全保護者に届いていないため、今後の課題である
	③⑧	個人情報の取扱いに十分注意している	6		SNSでの写真使用については保護者の同意を得て使用している	継続
	③⑨	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	6			継続
④⑩	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	1	4		地域住民との交流が図れるよう努めていく	
非常時等の対応	④①	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	5		各種マニュアルは作成し、防災訓練は定期的実施	保護者等への周知が不十分であったので、今後周知を行っていく 継続
	④②	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	6		利用者の災害時用品(食料・内服薬・医ケア品)をお預かりするとともに、定期的に訓練を実施している	継続
	④③	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	6		医師の指示書やケア表にて確認している	継続
	④④	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	5			該当者なし アレルギーマニュアルに沿った対応を行う 継続
	④⑤	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	5			継続
	④⑥	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	6			・定期的に研修会やセルフチェックを実施している 継続
	④⑦	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	4	1	身体拘束が必要な利用者がいないが、日々の連絡帳に拘束の有無を記入している	保護者への説明については不十分であるため、契約時・面談時等で説明する

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は、事業所全体で行った自己評価です。